

個別の支援計画

作成日

評価日

本人の希望は担任や保護者が聞き取ったり
 本人の思いを想像したりして書きます。
 聞き取りが難しい場合は
 保護者の願いだけでも構いません。

歳 カ月
 本人や保護者の希望や願いを踏まえた
 支援に関する意見を書きます。

本人・保護者の希望や願い	支援者（関係機関）の意見
・友だちをたくさん作りたい。（本人） ・困ったときに相談できる場所がほしい。（保護者） ・余暇を楽しむため趣味を見つけてほしい。（保護者）	・人と関わりながら成功体験を重ね自信をつける。 ・本人が取り組みやすい環境を整える。

長期目標：1年後を見通した目標（～R5 年 4 月）	短期目標：6ヵ月内の達成目標（～R4 年 10 月）
・わからないときや困ったときに人に助けを求められるようになる 目指す子ども像を書きます。	・集団の中でも指示や説明を聞けるようになる。 ・忘れ物をなくする。 目指す子ども像に迫るために当面取り組むことを書きます。

本人への働きかけ	支援の手立て（合理的配慮）	環境調整の工夫
1 「だれが何をどうした表」を活用し、指示や簡単な説明を理解できるようにする。（担任） 2 忘れ物をしたときは、授業が始まる前に先生に伝えるよう促す。（授業担当者） 3 登校時に一日の流れと持ち物を確認する。（担任） 本人へ働きかける際の手立てを書きます。	4 次に日の準備をする時間を決め、学級通信の時間割を見ながら準備をする。（母） 5 指示や説明の際は、できるだけ視覚情報を併用する。（授業担当者） 6 気の合う友だちが班に入るように配慮する。（担任） 本人が取り組みやすいように周りが整える条件について書きます。	

手立てにはナンバーリング（通番）し、それぞれの手立てに（ ）を附し担当者を記します。

成果	評価	課題
・上記の手立てについて、教職員が共通理解を図り、一貫した支援をすることで、大声をあげたり物にあたったりすることが少なくなった。 ・翌日の準備を自発的にできるようになり、忘れ物が大幅に減った。	・教師に注目することが苦手で、指示や説明の理解が困難になることが多い。 ・気の合う友だちとしか関わらず、他の友だちとのコミュニケーションが極めて希薄である。	
それぞれの手立ての「更新」「継続」「変更」「中止」を明確にした上で次の計画に生かせるよう その根拠となり得る評価を記載し それぞれの手立てを次の計画でどう扱うかをナンバーで分類します。		
➡「更新」する手立て： 5	➡「変更」する手立て： 5	
➡「継続」する手立て： 1・2	➡「中止」する手立て： 6	